

平成26年度 第1回

丹波市地域公共交通活性化協議会
(丹波市地域公共交通会議)

議 事 録

閱覽用

1 開催日時 平成 26 年 6 月 3 日 (火) 午後 1 時 30 分 開 会

2 開催場所 丹波市商工会 柏原支所

3 出席者 (委 員)

北 川 博 巳	会 長	里 尚	副 会 長
本 間 和 典	委 員	畠 宏 一 郎	委 員
小 西 一 夫	委 員 (代 理)	足 立 安 夫	委 員
矢 田 貝 勲	委 員	和 田 治	委 員 (代 理)
石 田 光	委 員	小 谷 友 美	委 員 (代 理)
北 村 正 彦	委 員	荻 野 忠 志	委 員 (代 理)
中 川 泰 一	委 員	長 田 貴	委 員
駒 谷 誠	委 員		

委員 15 名出席

(オブザーバー)

成 田 徹 一

(デマンド型乗合タクシー運営者)

藤 本 泰 男

(随行者)

中 谷 義 行

4 欠席者 細 見 尚 二 委 員

5 会議に付した議題及び案件とその内容

1. 開 会

2. 会長あいさつ

3. 議 事

①デマンド交通の状況分析について

②路線バスの利用状況について

③平成 25 年度の実施事業及び決算について

④平成 26 年度の事業案及び予算案について

⑤お盆と年始の運休について

⑥その他

4. 閉 会

1. 開 会

(事務局)

それでは失礼します。ただいまから、丹波市地域公共交通活性化協議会の会議第一回目を開催させて頂きたいと思います。それでは議事等いろいろございますが、北川会長様のほうにバトンタッチしまして、よろしく申し上げます。

2. 会長あいさつ

(会長)

どうもみなさん、こんにちは。平成 26 年、今回第一回の丹波市地域公共交通活性化協議会（地域公共交通会議）を開催させて頂きたいと思います。会長をしております北川でございます。よろしく申し上げます。会長を務めて早いものでかなりの年月がたつんですが、デマンドもすでに 4 年目を迎えて、だいたいこういうことで毎年ルーティーンとしてできあがってきて大変だと思うんですけども、いつも状況を分析しつつ一喜一憂しながら、マイナーチェンジを考えていこうというのが交通会議の役割ですし、今年はですね、今回は去年の事業ですね、実施事業、決算報告、予算案、ちょっと総会のような雰囲気になりますが、よろしくお願い致します。それから協議事項もいくつかあるようですので、その辺につきましても協議してまいらないといけないので、よろしくお願い致します。

3. 議事

(会長)

それではですね、早速議事の方にいきたいと思いますが、議事としては、今回は 5 つぐらいございまして、最初にですね、デマンド交通の状況分析、それから路線バスの利用状況、地域の中の交通状況を確認すると言う意味のご報告だと思しますので、①番と②番を合わせて説明をいただいて、質問があれば受け付けたいと思います。説明の方よろしくお願い致します。

(事務局)

それでは議事の①、②のことについて説明させて頂きます。座って失礼させて頂きます。まず、デマンド予約型乗合タクシーの登録状況なんですけど、「別紙 1」でご説明致します。

「別紙 1」の 5 / 5 ページをお開き頂きたいと思います。25 年度の登録者数は全体でデマンドの登録者数と致しまして、前年度に比べ、377 人新規登録となっております。それにつきましては、377 人という新規があるんですけども、死亡者、転出者等がありまして、差し引き 32 人の増となっております。

次に「別紙 2」に移らせて頂きます。運行状況ですね、ずっとつけております過去の日付の順番でつけておりますが、これも「別紙 2」の 9 / 9 ページを開いて頂きます。その 1 番下の右側の表でご説明させて頂きます。延べ利用者数と致しましては 30,491 人ございました。これは前年度の 3,045 人の増となっております。1 日の平均で見ますと、昨年度の 140.7 人に比べまして、158 人ということで、17.3 人の増ということになっております。それと、前年度 25 年度なんですけれども、1 ページ前に戻って頂きます。8 / 9 ページの 8 行目なんですけども、平成 25 年 12 月 27 日に最高、最多の人数ということで、294 人という利用者の数となっております。特にこの 12 月の末につきましては人数が大変多くなってきておられます。

それからその次、「別紙 3」のデマンド型乗合タクシーの実利用者数の集計表なんですけど、それぞれ行政区、あるいは地域毎に集計を致しております。ここでも、それぞれの地域、柏原地域、氷上地域、青垣地域、春日地域、山南地域、市島地域とあるんですけども、それぞれの地域で実利用者数、延べ利用者数とも増えているんですが、一点だけ、青垣地域でですね、「別紙 3」の 3 / 7 ページなんですけども、青垣地域

の実利用者が24年度の172人から25年度の171人と1人減となっております。しかしながら、延べ人数が4,885人から5,321人と436人の増となっているということで、青垣だけ減が生じたわけなんですけども、延べ利用者数としてはだいぶ増えているということで、1回当たりの利用者の方が、一人当たりたくさん利用をされているという結果になっていると思います。まあ、この辺も青垣の地域につきましては今後、実利用者をどのように増やしていくかが今年度の課題だと考えております。実利用者数の総合計と致しましては、1,265人で昨年度の1,166人から99人の増となって、8.5%の増となっております。一方、その右側なんですけども、延べ利用者数でも27,446人から30,491人ということで11.1%の増となっております。ここでも一人当たりの利用回数が増えていることが考えられます。

「別紙4」に移らせて頂きまして、ここではそれぞれ利用者のどのくらいの回数をご利用頂いているかというのを地域別、自治会別、行政区別に示した表でございます。これも「別紙4」の6/6ページをお開き頂きたいんですけども、お一人お一人の利用回数について前年と比べてみますと、1回から25回では52人の増で、1回から25回は二つ欄がかさなってるんですけど、1回から12回と13回から25回の欄を合計しますと52人の増となっております。前年比6.4%の増、51回から100回は29人の増で前年比25.2%の増、101回から150回は9人の増で前年比37.5%の増となっております。

それから次のページをお開き頂きまして、「別紙5」リピーター率についてなんですけども、ここでは前年から引き続きご利用頂いている方の割合を出しております。リピーター率というのは、前年の平成24年の上から7段目の1,120人ですね。その他というところが前年度の利用者数なんですけども、そこから平成25年度の上から2段目の929人を、先ほど言いました1,120人で割った数でリピーター率を出しております。割合が83%と言うことで、リピーター率83%なので、前年度78%から比べましても5%の増となっております。リピーター率が大変高い所で保っていると、これはご利用頂いている方に満足頂いている結果であると考えております。

それから「別紙6」に移らせて頂きます。「別紙6」では年代別の登録者数と利用者数を集計したものでございます。年代別で言いますと、やはり80代が2,657人で全体の27.3%となっております。続いて70代の2,098人で21.6%、あと60代と続いております。下のグラフで実利用者で見ても、80代が過半数の50%を超えております。その次が70代の29.1%となっております。

次、「別紙7」なんですけども、これは月別の延べ利用者数を出しているものですが、これで見ますと、真ん中のグラフなんですけども、一番右側の黄緑色が25年度なんですけども、全ての月におきまして前年度を上回る結果となっております。特に12月では1日平均174.9人という大変高い数字となっております。その次にですね、その下の曜日別で見ますと、金曜日が一番多くなっておりまして、どうしても月曜日は少ない数字となっております。これも前年と同様の結果となっております。

次に「別紙8」をお開きください。これは年代別の延べ利用者数を出したものでございます。これで年代別の延べ利用者数を見ても、80代が17,672人で全体の58%を占めております。その次がやはり70代で8,058人で26.4%。その下のグラフで見させていただきますと、前年と比べると80代が大変伸び率が上がっているのが分かります。70代が若干下がってきてますけども、その分、80代が上がってきたということが言えると思います。一番下のグラフなんですけども、運賃別では300円の乗車が24,606人、80.7%。200円乗車が5,816人、19.1%。無料の方で69人、0.2%となっております。

続きまして「別紙9」なんですけども、これはお出かけ先を集計したものでございます。お出かけ先と時間、何時便が多いかを集計したものでございます。まず上のグラフで見ますと、やはり9時便が一番多く6,756人で22.2%を占めています。次が10時便の6,610人で21.7%、それに続いて11時便と、午前の便が大変多くなっており、8時便が極端に少なくなっております。また、2時便、3時便についても少ない状況なので、この辺の利用者を増加をすることを考えていかなくちゃいけないかないうふうに思ってお

ります。次にお出かけ先の状況なんですけども、前年度同様にやはり、医療機関と商店への割合が高くなっておりませんが、若干、全体の比率といたしましては病院と商店も下がってきております。これはそれぞれ利用者の方がいろんな所へお出かけになっているという傾向が見て取れるのかなあというふうに考えております。またですね、鉄道との併用が年々増えていると、その下のグラフによりますと鉄道が毎年増えているのがわかるんですけども、これはありがたいことであると、他の公共交通との連携がうまくいっているのかなというふうに考えております。

続きまして「別紙 10」なんですけども、これはデマンドタクシーの利用者の上位の方の一覧というので上げさせて頂いております。個人別に上位の利用回数を見てみますと、年間で 101 回から 150 回の利用者層が大変厚くなっておりまして、前年度の 24 人から 33 人に増えております。また、今年度上位 50 人を見てみますと 300 回から 150 回、101 回までが 47 人となっております、デマンドが着実に浸透してきていることが伺えると思います。

それから「別紙 11」なんですけども、ここでは乗降場所をあげさせて頂いております。ここにつきましては、前年度同様に降車場所は病院・診療所が大変上位のほうを占めておりますが、乗車場所につきましては商店が上位を大変高く占めております。これは病院に行かれた後、商店にも寄られて、そこからお乗りになったということが伺えるのかなというふうに考えております。それともう一点ですね、降車場所で平成 25 年度の 14 位の所なんですけども、今までは平成 24 年度までは全然入っていなかった、石生駅がここで上がってきております。これは石生駅、先ほど言いました JR との乗り継ぎにデマンドを使って頂いているということが見受けられる結果だと思えます。

以上、「別紙 1」から「別紙 11」までのご説明をさせて頂いたわけなんですけども、今私が申し上げましたことを「別紙 12」その次のページですね、そこに簡単ではございますが、結果を書かせて頂いております。評価と致しまして、ここに 6 点上げさせて頂いてます。読み上げさせてもらいますと、前年に比べ、さらに実利用者及び延べ利用者が増えていることは、デマンドが利用者から高く評価されていることを物語っており、着実に浸透していっていることが伺えると思います。また、新規利用者が増えていることと、かつりピーター率も前年より高くなったことから、現行サービスの水準について、多くの利用者の方が満足されていると判断できると思えます。前年に比べ、さらに駅への利用が伸びております。デマンドは、需要の多い旧町域に運行を限定していますが、遠方へのお出かけ方法として、鉄道を利用しようという動きが明確に出てきていると言える。このことは、鉄道が、定時性があり運賃も安くさらに安全かつスピードのある乗り物である特徴を生かし、デマンドと連携する方法が有効であることを利用者の方自らが実感されているのではないかと思います。お出かけ先と致しまして、医療機関と商店の割合は依然高いんですが、全体の比率は低下傾向にあります。このことは、お出かけ先の多様化につながっていると考えられます。全体を通してみますと、デマンド単独の利用増はもちろんのこと、鉄道や路線バスに対しても利用増を促す機能として役立っております。利用者もそれぞれの公共交通を使い分けて、賢明な選択をされていることが、今年度の資料から見てとれます。他の公共交通との相乗効果がみられることから、「丹波市地域公共交通総合連携計画」に基づき、引き続き連携を軸とした利用増進に向けて、周知活動を推進していくことが重要であると思えます。以上、大変簡単ではございますが、デマンド交通についてご説明を申し上げます。

引き続き路線バスの利用状況についての説明を申し上げます。「別紙 13」をお開き下さい。これにつきましては、平成 20 年度から平成 25 年度までのバスの延べ利用者数を上げさせて頂いております。

まず、篠山から柏原間につきましては、23 年、24 年まで減少傾向にあったんですけども、25 年度については、微増しておりますので、下げ止まったのかなということが考えられますが、まだ今後とも注視していくことが必要であると思えます。それから、柏原青垣間につきましては、平成 22 年度までは減少傾向に

あったんですけども、平成 23 年度からは増加傾向に転じております。23・24・25 と毎年伸び続けておることの結果となっております。これにつきましても、ダイヤの改正をして頂いたり、低床バスを導入したり、「てくてくたんば」であったり啓発活動によってだいぶ伸びてきたというふうに私どものほうでも考えております。それから、柏原から春日の路線なんですけれども、これについては 25 年度に大幅に減っております。これは、スクールバスの要素もございまして、この路線は小学校の児童を運んでいるところもあるんですけども、その減少に歯止めがかからない状況となっており、そこは危惧しておるところでございます。山南地域の谷川駅から坂尻の間なんですけれども、ここも毎年減少傾向にあったんですけど、まだまだ回復とまではいきませんが、25 年度は若干上向きになっております。このまま 26・27 年と上向くような手立てが必要であると考えております。下のグラフにつきましては、上の表をグラフ化したものでございますので、お目通しください。以上で、①②の説明とさせていただきます。

(会長)

どうもありがとうございました。確認だけしていきたくと思いますが、登録状況なんですけど、人口でいう登録者数の 14%のうち、登録された方のうちで 13%は実利用者ということですね。だいたい普通の値くらいかなと思います。それから、週でいうと 700 人くらい、一日あたりでいうと 240 名とかそれくらいの方が使っていらっちゃって、ありがたいことに 200 人以上利用されてる日数がですね、資料に書いてありますが 15 日あります。昨年と比べて利用者数が増えている。一番の指標じゃないかなという風に思えます。だいたいやっぱり年間でいうと月に一回とか 2 か月に一回とかの方が結構多いので、もうちょっといろんなところにお出かけをして頂くのが大事なのかなと思います。それからあと、80 歳代の方がたくさんいるので、70 歳以上もあわせて高齢化が進んでいくといわれているんですけど、かなり高齢社会のなかで皆が頼りにしている乗り物なんじゃないかなというふうなことが考えられます。実利用者数の話ですので、登録している人は若い人もいらっしゃるんですけど、本当に使っているのは 70 代 80 代というところがあるんじゃないかということですね。ですから、目的は病院とか買い物とかそういうところが多いですが、駅はね、増えてきましたね。だから多分、もう少し分析しなければいけないですけど、結構若い方も使っている、例えばバス停とか駅とか、まあそういうところに行かれてるんじゃないかなという思いもあります。それからバスですけど、全体から見ると何とかちょっとだけ増えてます。路線が増えたり減ったりなんでね、何とも言えないところがあるんですけど、少し原因を考えて、何らかの対策をしていかなければいけないかなというところですね。この辺は現場で情報を仕入れてもらって変えていかなければならない部分もあるのかもしれないですね。当初デマンドをしたら、バスも減るんじゃないかという話もあったんですけども、基本的には横ばいといいますか、上がっている路線もあるぐらいですから、バスとデマンドとを合わせて公共交通、それでお互い相乗効果もあるのかなというところが見て取れますね。

それでは、この辺の資料について、確認事項とか質問事項とかありましたら、お聞きしたいと思いますのでなにかありますでしょうか。お願い致します。

(委員)

「別紙 12」の評価というところの 2 項ですけど、新規が増えてきているという中にはやはり高齢者の免許証返納の効果があるんじゃないかと思いますが、これについては、返納の率とかそういうのは分かるんですか。返納者の状況。

(委員)

わからないんですけど、毎日のように一人二人というのはあります。

(委員)

80代以上は、だいたいできるだけ返納というのが老人会の方でもあるんですけども、以後増えてくるんじゃないかとは思いますが。

(会長)

ありがとうございます。

(委員)

全体にですね、自治会単位で言いますと、自治会の世帯者数とか登録者数、登録率、ちょっとまだばらつきが多いんじゃないかなという気が致します。いろいろと地域事情はさまざまですから、どこも同じようにということは困難だと思いますが、デマンドタクシーの登録そのものを、まだご存じない方がかなり多いんじゃないかという気がこれを見て致しました。例えばですね、氷上町の石生というところの、最初のページ、ここで氷上の中ほどの所、地頭から11自治会あるんです。サンコーまでのところ。ここ見ますと、例えば地頭というところ9.5パーセントですね登録率が、その下の石生新町になっても、6.2パーセントなんです、その下の領町というところなんです36.7パーセントもあります。これ地域性は違うんかというたら、ほとんど変化のないとこなんです。こういったところから、逆に横田なんかは200軒からの250軒くらいの戸数になってますが、もともとの戸数は100軒くらいありまして、そこでも6.6パーセントは低いなとみています。市辺とか本郷、稲継というのはほとんど新しい住民というのがない地域なんです、ここでも22パーセントあったり、16パーセントあったりするのに、市辺、横田なんかは1ケタというようなことになっております。このあたりもう少し、手立ての仕方があるんじゃないかなと思ったりします。

「別紙3」の2/7ですが、そこで同じ氷上の石生の地域を見ますと、石生新町は低いですけど領町は25年度は176人の利用があり、それぞれの地域のばらつきが多いなあと感じております。ところが、横田を見ますと、登録者数は少なかったのに245人の利用者がある。こういう状態は一人の方がたくさん乗られたのかもしれませんが、この辺を細かく分析して頂いておりますので、こういうことが見れたんだと思います、私いま自治振興会の役員をしております、今度自治会向けにPRをする機会をもって頂いてもいいのかなという気が致しました。今まで数年やっていますけど、あまりこれをやってもらったことはないんですが。それからもう一つ石生駅が、利用者が増えてきたという話がございまして、福知山線の複線化推進協議会がございまして、こういった中での各地区で取り組みをしてるんですが石生駅の場合は石生駅で切符をお買い求め頂くと、1000円に対して1ポイント貯めていただいて、共通商品券をお渡しするような制度を何年前からやっています。自治振興会の形でやっていますが、そういったことも含めてデマンドタクシーから、JRなりタクシーやバスなりというところで繋いでもらうのも方法かなという感じが致しました。

(会長)

ありがとうございます。今のご意見私も賛成のところがありまして、地域が広うございますので、一定のオーダーがあって草の根的にやってくられた経緯があるので、大事なことだと思いますし、特にこれから総会シーズンとかね、いろんな会合のシーズンだと思いますので、そういった所にデマンドのチラシを潜り込ませるとかそういった戦略が大事なのかなと思います。それから、データとしてはだいたい75歳以上の方が主な利用者だと考えると、確かにいろいろ各地域回るのが大事なんですけども、そういう対象

者の多い地区を抜き出して、それぞれ重点的に会員になって登録して頂く、どうすれば乗れるかをレクチャーする、そういう地区をあげてというのも、一つ大事なんじゃないかと思います。その辺を照らし合わせて、次の戦略を練って頂くときなのかなと思います。ご検討をお願いします。その他お気づきの所なんでも結構ですので頂ければと思います。

(委員)

利用者数も大変伸びてまして、素晴らしいことだなと思います。私も他の地域の公共交通会議ですとか出席してる中で、丹波市さんのデマンドタクシーというふうに注目が集まっています。どういうふうにやられているのかということも、いろいろお尋ねがあったりとか、県の方でも議会の方からも自分達の地域でしてみたいという話もお聞きするような状況になっています。伸びていってるということは素晴らしいことで特に先ほどもお話にでましたように、駅で利用が増えている、公共交通、デマンドタクシーだけでなく、公共交通として連携して伸びてくるということが一番素晴らしいことじゃないのかなと。引き続き頑張ってもらいたいなど。

今後の課題となるのかなと思ってますが、利用があまりに増えてきたときに、やっぱり利用できなくなってしまう方、回りにきれないので、もし連絡をされても使えませんというようなことが出てきてしまうのかなと、そういった時の対応を検討していく必要があるのかなというふうに考えます。以上です。

(会長)

商工会さんの愚痴を聞かなければいけないのかな。今の所どういう対応ですかね。ちょっとこの辺の確認をお願いしますか。

(運営者)

商工会の●●です。登録者数については、僕の考え方は、自分の近くに商店があり、お医者さんがあり、病院もあるというところについては登録をしなくてもよいというところがあったりして、商工会も総代会の時に、市の方からパンフレットを作っていただきまして、商店に待合所を設定することに補助金が出るというようなPRも作っていただきまして、その辺のとこの商店がいかにかデマンドを利用される方が店に来ていただくというような販促活動をこれから商工会としてもできるかなと思います。

(会長)

やっぱり8時便が非常に少ないのと午後便の利用があまり芳しくないというのがございまして、この辺の利用を少し促すような時間帯も結構出てくるのかなと。どの交通も午前中でほしい用を終わらせて午前中には帰ると、いろんな調査をして聞いたことがあるんですけど、高齢の方はそういう傾向が多いので昼過ぎ以降出いただくのがいいかなと。ただし、真夏の昼すぎ以降は抵抗がありますよね。例えば季節がいい時とかそういうところなんかも勘案して、戦略づくりを考えていかなければいけないのかなと、この辺は検討事項ですね。今のところがいっぱいになることはないと思うんですけど、何回かあるんですかね。断られる時というのは。

(事務局)

9時便の方が10時便に回ってもらったことはあったと思うんです。それと今の所、車13台あるんで、空いているところの便を忙しい所に回してもらったりしたことはあるんですけども、先ほど兵庫県の交通政策課の副課長さんも言われたように、今後の課題としては、車の配車のこととか、その辺は考えていか

なければいけないとは考えております。そうなればうれしい悲鳴なんですけど、会長さんが言われたように、時間帯によって大変混み合う時間とすいてる時間があるので、その辺のことをもう少し考えていく必要があるとは思っております。

(会長)

また増えたらいろいろ考えていかないといけないかもしれません。また先にいろいろ考えていかなければいけないかもしれません。その他よろしいでしょうか。ここで確認は終わらせて頂きたいと思います。

路線バスの話が出てなかったのですが、グリーンバスさんのこのところの確認をさせていただければと思うんですが、状況についてはどうですか。

(随行者)

一覧表をずっと見てもらっていると思うんですけども、柏原青垣線に関しては西高校に通う学生さんが依然より増えたというのが大きなことだと思うんです。それから、ゆめタウンやコープを利用される方が、以前より増えておりますので、その傾向だと思っております。春日の方は前からの通り学生さん、小学校の方が主なもので生徒さんが減少していますので、減っているのが現状です。それから山南地区はちょっとこれ確認してないですけども、増のように書いてありますが、そんなに増えてないのが現状だと思います。伸ばす方法ということで市の方も何か考えておられるみたいなんですけども、そんなに増ではないと考えております。山南地区はどうしてもデマンド乗合タクシーが同じ町内を走っておりますので、どうしても利用者がそちらの方へ流れているんじゃないかと考えております。だから、そんなに増えてないんじゃないかと考えております。だいたい以上です。

(会長)

ありがとうございます。デマンドの乗り継ぎなんかでもバス停とかも結構ありますので、少しまたその辺も事務局の方でこのバス停は乗継が多いんですとかも協議・お話しいただいて、もしそういうところきれいにするんだったら考えなきゃいけないと思いますので、よろしくをお願いします。

それでは一応報告事項はこれぐらいにしとしまして、続いてですね、事業の公共交通活性化協議会としての事業をどうするかというところを考えなければいけません。それで去年の結果と今年の予算案がありますので、それについての審議をしていきたいと思います。それでは③と④のご説明をして頂こうかと思っております。よろしくをお願いします。

(事務局)

それでは平成 25 年度の事業の報告と決算についてご説明をさせていただきます。まず「別紙 14」をお開きください。平成 25 年度の実施事業ということで、まず活性化協議会は 6 月、10 月、12 月、3 月と 4 回開催致しております。第 1 回では本日と同じように事業計画、事業報告及び決算と事業計画と予算。それぞれのデマンドの内容分析等を行っております。第 2 回につきましては、市の人口達成イベントのこととか、路線バスの利用者増への取組みのことについて協議頂いております。第 3 回では路線バスの経路変更ということで、路線バスが佐治へ行くということについての、佐治まで延伸するというところについての協議を頂いております。第 4 回ではデマンドのグループ利用とお盆と年始の運休日についてご協議頂いております。それからデマンドの三者会議といたしまして、各タクシー会社様と商工会様、市で 2 ヶ月に 1 回会議を持ってあります。それから、ノーマイカー通勤運動への協賛ということで重点実施日 7 月と 11 月にクールアースデー実行委員会に協賛して取り組みを行っております。それから、公共交通パンフレット「て

てくてたんば」を年2回、10月と3月に発行して医療機関であるとか、商工会の会員様の所であるとか、公共施設等に配布させて頂いております。それから、路線バスの利用増進活動として、バス停周辺の200メートル内のご自宅にチラシを配布させて頂いております。それから、低床バスの市の方からお貸ししている日野ポンチョの方に、夏、秋、クリスマスといったイメージで車内装飾をしております。それから「てくてたんば」をここに書いておりますように、医療機関、薬局、商店、公共施設にお配りさせて頂きました。それから啓発活動としましては市のホームページに公共交通情報の掲載。電話や訪問による随時そういったことへの対応。それから、新聞記事への情報提供も致しております。それから、市の広報誌に丹波市の人口を達成したということと、特集記事も掲載致しました。それから、関西テレビでは高齢者の運転免許返納に係る取材の中で、丹波市のデマンド交通を取材頂きました。それから、社協さんと連携を取りながら、ここに掲げております4つのいきいきサロンに出向きまして、デマンドの説明、デマンドだけではないですけども、公共交通全体の説明をさせて頂いております。

続きまして、平成25年度の決算書のご説明をさせて頂きます。歳入合計と致しましては45,757,490円。歳出合計で45,757,490円。差引残高0となっております。歳入で、款、項、目、予算額、決算額の順に読み上げさせて頂きます。負担金、負担金、負担金として50,358,000円、決算額45,757,225円。諸収入といたしまして、予算額0で、決算額265円となっております。合計で45,757,490円となっております。

歳出で、款、項、目、予算額、決算額で読み上げます。運営費、事務費、事務費で50,000円、決算額5,568円。事業費、事業費で50,308,000円、45,751,922円。予備費、予備費で0、0。合計で50,358,000円、45,757,490円となっております。それから、歳出の内訳なんですけども、右側の表で「別紙16」になりますけども、読み上げさせて頂きます。運営費の事務費と致しまして、事務用品と振込手数料で5,568円。事業費といたしまして乗合タクシー運行費でかかりました必要経費から運賃を引いた残り33,606,200円と、任意保険料格差是正ということで500,000円負担いたしております。合計で34,106,200円となっております。デマンド予約センター運営費といたしまして、賃金5,541,910円、交通費191,800円、社会保険料66,182円、福利厚生費29,400円、事務所費960,000円、警備保障費109,725円、備品購入費19,800円、光熱水費360,000円、回数券補てん金といたしまして300円券で328,800円、200円券で52,800円、固定電話代といたしまして408,432円、車載携帯電話代といたしまして886,357円、ネット接続料で25,200円、消耗品で380,046円、振込手数料で4,840円、自動車リース料60,000円、燃料代6,661円で、デマンド予約センター運営費合計で9,431,953円。システム保守費といたしまして消耗品で5,880円、デマンド交通システムバージョンアップ代といたしまして414,750円、利用促進啓発費といたしまして「てくてたんば」の印刷代が1,279,950円、備品購入費で303,240円、デマンド回数券で18,000円、啓発用事務用品として191,949円で、利用促進啓発費合計が1,793,139円、事業費の合計で45,751,922円となっております。以上が平成25年度の決算書の説明です。

(会長)

ありがとうございます。それでは一旦ですね、これにつきまして、なにかご質問がございましたら。すみません、何かありますでしょうか。

監査員さんに監査いただいておりますので、ご報告をさせて頂きます。

(監査員)

私、みなさんのお手元の方に委員の名簿があらうかと思っております。私、特定非営利活動法人●●ということで、役職は空欄になっているのですが、現在、NPOの副理事長並びに●●地区の自治振興会の会長をしております。それと案内にありました通り、今回の決算につきまして●●様と同時に監査を実施いたし

ました。職員さんのいろいろ、関係帳票等もいやになるほどの資料の中から逐一説明頂きまして、ここに書いている通りちゃんと処理されていたことをご報告致します。

(会長)

監査まで終了しましたので、よろしいでしょうか。なんかお気づきのことがありましたら言っていただければと思います。次は平成 26 年度事業につきましてご説明をうけます。

(事務局)

それでは平成 26 年度事業（案）について説明させて頂きます。まず「資料 17」です。1 番として活性化協議会の開催。本年も同じく 4 回を計画致しております。2 番、デマンド予約型乗合タクシーについてですけれども、医療機関、商工会会員、集客施設、公共施設等でのパンフレットを配布いたします。それから、ふれあいサロン等への公共交通出前説明会を開催したいと考えております。3 として、デマンドをはじめ公共交通に係る相談や問い合わせへの対応を行います。4、待合環境整備補助金の周知活動としてこれ先程、商工会のほうからお話がありましたけれども、商工会の総代の方にお配り致しております。5、デマンド延べ利用者 10 万人目達成式典の開催ということで、本年度秋くらいには 10 万人達成するんじゃないかと思っておりますが、できれば市の 10 周年記念行事の中でできたら一番いいと思っておりますけれども、その場で 10 万人目の方の表彰であるとか、各地域の一番利用の多い方の表彰であるとか、お世話になってるタクシー会社さんへの感謝状であるとか、そういったことを考えております。それからデマンド三者会議は 2 ヶ月に 1 回開催致します。路線バスにつきましては昨年に引き続き、バス停周辺の 200 メートル範囲の住民の方への情報提供を行ってまいります。それから、車両内の装飾デザインを継続していきたいと思っております。それから、バスサービスの見直し及び検討ということで、本年度グリーンバスさんとも検討しながら、もう少しサービスの改善等があるか考えて行きたいと思っております。4 と致しまして公共交通の利用促進に向けた啓発宣伝活動で、デマンド、路線バス、タクシー及び鉄道に係る情報を載せたパンフレットの作成ということで、毎年やっております「てくてくたんば」を本年度も年 2 回発行する予定でございます。市ホームページでの情報提供と、デジタルサイネージと言いまして、ゆめタウンさん、コープさん、アルティさん、日赤病院さんの方で市の情報を流すサイネージを今、丹波市の方でテレビを置いて流しております。その中にすでにデマンドのことも流して頂いております。それからノーマイカー通勤運動への協賛ということで丹波市クールアースデー実行委員会が主催する、そういった運動にも参加していきたいと考えております。

続きまして平成 26 年度の予算案についてご説明申しあげます。歳入合計 49,191,000 円。歳出合計 49,191,000 円。差引残高 0 でございます。歳入、款、項、目、前年度、当年度の順に読み上げます。負担金、負担金、負担金、50,358,000 円、49,191,000 円、丹波市からの負担金でございます。歳入合計も同じく 50,358,000 円、49,191,000 円となっております。歳出につきましては、運営費、事務費、事務費 50,000 円、50,000 円となっております。事業費につきましては、前年度 50,308,000 円に本年度 49,141,000 円となっております。これにつきましては乗合タクシーの運行費 35,456,000 円とデマンド予約センター運営費 11,150,000 円、利用促進啓発費 2,535,000 円となっております。歳出合計と致しまして前年度 5,035,000 円に対して本年度 49,191,000 円となっております。その次のページにつきましては見積り資料として、こういった見積りがあるということで細かく上げておりますが、またお目通しを頂きたいと思っております。以上でございます。

(会長)

ありがとうございました。今年度としては「資料17」にあるような活動をしていくということですかね。お金に関しましては、「18・19」に書いてございます。これにつきまして何かございますでしょうか。はい、どうぞ。

(事務局)

1点だけ言い忘れましたけども、路線バスの関係で、バス停周辺200メートルの各お家の方に去年はチラシをお配りしてたんですけども、本年度も行うんですが、去年までは事業者の方のお名前でお配りさせていただいていたんですけども、本年度は、市の職員とオペレーターさんとで自転車で走りながら各ポストにチラシを配布していたんですけども、本年度はいろいろとオペレーターさんと話をする中で、市の広報誌を毎月、各自治会の方からお配りしている中に、そういったチラシも入れた方がいいんじゃないかということで、200メートルの範囲のある自治会だけになるんですけども、そういったチラシを入れたいなと思っております。ただその時に、神姫バスさんのお名前に入れる訳にもいかないし、活性化協議会としてこういった活動もしているということ、市民の方に知って頂く良い機会でもあると思うので、活性化協議会のお名前でも若干、文面もそういったものに変えてやっていきたいと思っております。文面については会長さんともお目通し頂いたりしながらしたいと思うんですけども、本年度は今までは配っておったものを自治会長さんに無理を言うことになると思うんですけども、そちらの方でお配りしたいと思っております。名前も活性化協議会の名前を前面に出して配りたいと思っております。

(会長)

ありがとうございます。よろしいですかね、自治会もご協力をいろいろとよろしくお願ひします。

今年度の活動としても相変わらず啓発宣伝活動というところでやんなきゃいけないというところは分かっていることですが、なかなかお金の方がかかる話ですから、この辺も頑張ってくださいながら、回収をしていくことが重要だと思います。運賃は特にですね、事業費のところの乗合タクシーの中の運行費の中の運賃ということではね返ってきます。運賃収入が上がれば上がるほど、やはり、支出としては減ってくるということで、やはり乗って頂くことが大事だということで、よろしくお願ひしたいと思ひます。はい、ではお願ひします。

(委員)

今の自治会の方にパンフレットを入れるということですが、今、組長をしとるんですが、毎月一杯資料が来るんですよ。これ、運賃改正してますけど、とにかく字を大きくしてわかりやすくお願ひします。てくてくたんばも、前に言うとして文字が大きくなってありがたいですけども、もっと大きい方がいいんですけども、あんまり詳しく時間を乗せるとどうしても小さくなるんですが、お願ひしたいと思ひます。以上です。

(会長)

ありがとうございます。考えましょう。なんか。最近、分かりやすい文章とか読みやすい文章とか、結構研究所も勉強してますんで、ありがとうございました。はい、よろしいですか。ということで引き続き、事業としては本年度もう始まっていますけども、こういう形で取り組んでいきたいと思ひますのでよろしくお願ひ致します。それでは今日の審議事項としましては、昨年度の最後に少しお話があったと思うんですが、デマンドの盆と年始の利用率がかなり低いんで、運休日設けたらどうかというお話があったと思ひますが、改めて今日その話をしていきたいと思ひます。説明の方またよろしくお願ひ致します。

(事務局)

それでは、お盆と年始の運休についてのご説明をさせていただきます。資料といたしましては、最後の「別紙 20・21」になります。前回 3 月のときに、いろいろとご協議頂いたんですけども、何もなくて、どこでどう利用されているのかというご意見もありましたので、その辺をまとめてございます。まず、「別紙 20」では、平成 23 年から 25 年までのお盆と年始の利用者数を掲げております。年始の 25 年度は 4、5 と、今年のお正月は 4、5 と休みだったもので数値としては上がっておりませんが、そこに掲げております通り、お盆では平成 23 年の 8 月で 38 人、その月の平均と比べますと、37%、平成 24 年度も 13、14、15 とあるんですけども、それぞれ 57 人、37 人、62 人ということで、その月の平均と比べますと、大変低い数字となっております。平成 25 年度につきましても、15 日は木曜日で休みだったんですけども、58 人、47 人と少なくなっております。年始の方は数値として見れるのが、平成 23 年度の 1 月 4 日の 32 人と、平成 24 年度の 1 月 4 日の 50 人でしか見れないんですけど、6 日になれば大部回復してくると言いますか、通常通りの利用状況だと思うんですけども、23 年度と 24 年度だけみれば 4 日の日は大変少なくなっているということがうかがえると思います。つづきまして、その「別紙の 21」なんですけども、1 番最後のページですが、そこを見て頂きましたら、それぞれのお出かけ先を掲げさせて頂いております。病院から順番にあるんですけども、病院と商店、その辺が多いかと思いますが、平均と比べましてもその辺が多くなっております。それでもう一度「別紙 20」の方に戻りますけども、下の括弧書きに掲げております通り、「運休日の追加」ということで、現状の通り、お盆と年始の利用者が非常に少ない。お盆の 13 日から 15 日にかけては、医療機関のほとんどが休診であり、また、親類縁者の帰省から、家族等の送迎により、デマンドの必要性が低いとも考えられる。年始では、1 月 6 日以降、ほぼ平常の利用者数に戻っているが、4 日と 5 日は、お正月の雰囲気、ゆっくり自宅で過ごされている事情と推察ができ、お出かけのニーズは低いのではないかと考えております。

これは事務局の案というふうになりますけども、運休日について、現在の、木、土、日、祝祭日及び年末年始から、次のように変更したらどうかというご提案でございます。

木・土・日曜日、祝祭日と、お盆の 8 月 13 日～15 日、年末年始を 12 月 29 日～1 月 3 日だったものを、1 月 5 日にするようにしたらどうかという提案でございます。それから「別紙 21」の一番下の 3 番に掲げております、考え方としては、当月平均の 3 割程度しか利用実績がございませんということで、一方で将来にわたって運行の継続を維持するためには、収支の改善を図らなければならないことから、お盆の 13 から 15 までと、年始は 5 日までは、運休することが望ましいと考えます。また、運休を検討する日は、季節的にも暑い時期と寒い時期にあたり、運転手さんの体調維持に格段の配慮が必要な時期でもあることから、お盆及び年末年始に休暇をとってもらうことで、体調の回復等心身のリフレッシュを促し、運転の安全性を高めていただくねらいもあるということも、申し添えさせていただきます。以上でございます。

(会長)

ということで、運休に対する考えのところですけど、確かにごもっともだなと思うところもございまして、この辺考え方なんじゃないかと思うんですね。要は 30 人から 50 人くらいしかいないと考えるか、30 人から 50 人いっちゃうと考えるかなんですけどね。どちらかといいますとデマンドそのものが、日曜と祝日は運休していることもあるし、比較的、お盆とかお正月は休みのことなんで、ご理解は得られやすいかなというところですね。それで、今回は年末年始は 29 から 5 日までを考えているということです。何かいいアイデアがあればいいんですけど、お気づきのことで、こんなんでも代わりになるかなあということでもあればいいんですけど、いかがですかね。なかなか難しい話だと思いますが、今年はこのような形でやっ

てみましょうか。お互い様ですものね。タクシー業者さんも確かに夏暑いのも大変ですからね。冬も寒いですし、というようなところもあろうかと思えます。タクシーについては、たぶんやっていたらいいと思いますので。そういうところなんかも努めてご誘導していただく、そのようなケアもしつつ、このような形にすればよろしいんじゃないかなと思います。よろしくお願いします。

(事務局)

その件で1点だけご了解頂きたいのは、この8月のお盆からできるかどうかなんですけども、陸運局の方にも届出が必要なので、今は運休日にしていないので、その辺のことを相談して、出来ればこの8月からと思っておるんですけども。あと、市民の方への周知活動も時間があると思えますので、この8月からになるのか、来年の年始からになるのか、流動的な所でおいておいてほしいと思えます。よろしくお願いします。

(会長)

それでは一応議事的にはこれで終了ですが、何か他にお気づきのところがございましたら。資料をあらためてるところですが、何かございますでしょうか。はい、それでは、7番その他、次回開催日ということで、少しご報告頂ければとおもいますが、何かありますか。はい、特になし、9月くらいにするかもしれないということでもよろしいですかね。それまでは主要な何かありましたかね、今の所ないですね。

(事務局)

先ほどご了解いただきましたんで、お盆のことで陸運局さんへの届出等で、いつから実施しますという通知は、委員の皆さんにはまた後程させていただきます。9月までには出しますので。

(会長)

それでは、そろそろ終わりにしようと思えますが、今日を振り返りますと、一つはですね、もう少し会員登録の定着的アプローチがあるんじゃないかということで、一つは高齢者の利用が多いものですから、ご高齢の方の会合が多い集落を探していただいたらいかがかということですね。特に6月は総会とかいろんな集まりのシーズンなのでご勧誘をよろしくお願いします。利用者増への対応も少しずつ考えて行ななくちゃいけないのかなというところですが、今回はそれぐらいなんですけども、時機やって来るだろうというところ。それからバス停の乗り換えなんかは、もう少し強化して頂いてもいいのかなというところが、当面の宿題ではなかろうかと思えます。まあ、いづれにしても、予算面を見ましても運賃収入をあげることが唯一経費を減らすことだということですので、まあその辺なんかも、いっぱい乗って頂くにはどうすればよいか、逆にいっぱい乗ったらどうするか、その辺、バランスを常に考えながら、次の9月の会議をやりましょうということだと思いますので、よろしくお願いします。それでは次は有償運送運営協議会ですので、事務局にお返ししたいと思います。

(事務局)

長時間にわたり慎重審議ありがとうございました。引き続き、有償運送運営協議会ですけども、3時からさせていただきますので、10分程度休憩を取らせて頂きたいと思えます。その間、会長さんが変わりますので、お席の移動をよろしくお願いします。長時間ありがとうございました。